

先祖返りする母音

—派生語における母音変化について—

中 道 嘉 彦

はじめに

英語を学び始めたころ、childは「チャイルド」と発音するのに children はなぜ「チルドレン」なのか不思議に思った記憶がある。また過日の授業で wilderness を「ワイルダネス」と発音するのを耳にした。wild の発音を応用したに違いないが、正しい発音は「ウィルダネス」である。このように基の形、すなわち語基 (base) である child や wild に接辞を付加して派生語を作る際、語基の母音が変化することがある¹⁾。そういった派生語における母音変化には一定の規則性があるのではないだろうか。筆者は英語史の観点から以下のような2つの仮説を考えている。すなわち、古音化²⁾ (派生語の母音には古い母音、具体的には大母音推移 (Great Vowel Shift、以後 GVS と略す) 以前の発音が用いられる場合がある) と短音化³⁾ (接辞を付加して単語が長くなると、例えば長母音を短母音に、二重母音を単母音にするなどして、単語全体の発音にかかる時間を短縮しようとする傾向がある) の仮説である。筆者はこの2つの規則でかなりの単語とその派生語の母音変化を説明できるのではないかと感じている。

本稿のデータは主に『ウィズダム英和辞典』第3版 (三省堂、2013) から拾い、その他は地名辞典、各種書籍、その他の情報源から採用した。発音が英音と米音で異なる場合は英音を優先した。また英語史におけるおよその時代

区分は次の通りである。すなわち、古英語 (OE : 700-1100)、中英語 (ME : 1100-1500)、近代英語 (ModE : 1500-現在)。

大母音推移 (Great Vowel Shift)

まず大母音推移という現象を確認しておこう。ME の 7 つの長母音 (i:, e:, ε:, a:, ɔ:, o:, u:) が ModE に至る過程で体系的に変化した。これが他のヨーロッパ言語との違いを際立たせている。例えば英語以外のヨーロッパ系言語では 'a' という文字をローマ字式に /a:/ と発音するが、英語は GVS を経ているので /e/ となる。

以下の表 1 は Krug の Table 48.2 (p. 760) を改変して、ME から ModE への母音 (GVS (7 つの長母音の変化 (I) - (VII)) に短母音の変化 (VIII) も加えた) の推移を示したものである。本稿の議論を理解しやすいように、提示する順序を逆台形の母音図で左上から反時計回りに変更した。中間段階の発音には手を加えていない。右隣に並べた表 2 は ModE における語基から派生語への母音変化を示している。表 2 の変化 (例えば (1) ai > i) が表 1 の変化 (例えば i: ... > ai) とちょうど逆向きになっているのが分かるだろう。すなわち語基から派生語への母音変化は、歴史をさかのぼり、ModE から ME へ先祖返りしているのである。

	ME	ModE (RP)	語基	派生語	例
(I)	i: > ii > əi > ai		(1)	ai > i	child > children
(II)	e: >	i:	(2)	i: > e	deep > depth
(III)	ε: > e: >	i:	(3)	i: > e	heal > health
(IV)	a: > æ: > ε: > e: > ei		(4)	ei > æ	nature > natural
(V)	ɔ: > o: > ou > əu		(5)	əu > ɔ	cone > conic
(VI)	o: >	u:	(6)	u: > ɔ	goose > gosling
(VII)	u: > uu > əu > au		(7)	au	house
	v			v	
(VIII)	u >	ʌ, ə	(8)	ʌ, ə	husband

表 1 : ME から ModE へ母音推移

表 2 : 語基から派生語への母音変化

表1に見られるMEの長母音は表2の派生語では短母音に対応している。語基から派生語への母音変化はGVSの変化を逆行して歴史をさかのぼるが、同時に短音化も起きている。(3)の派生語の母音はGVS(Ⅲ)の中間段階の母音/e:/に対応している。辞書によっては、『リーダーズ英和辞典』(第3版)のように、**health**に/e/を与えているものもある。(4)の派生語の母音/æ/も中間段階の母音と考えられる((Ⅳ)を参照)。*i:/*と*ɪ/*、*ɔ(:)/*と*o:/*は厳密に言えば舌位がそれぞれ異なる。しかし前者はhigh front vowel(高前舌母音)、後者はmid back vowel(中後舌母音)で一括りにできるので、本稿ではほぼ同じ母音と考えることにする。(Ⅶ)、(7)は語基 **house** の母音はME **hous** /u:/ (古い音)からGVSを経て/au/ (新しい音)に変化した結果であることを示す。一方(8)の派生語 **husband** に現れる母音/ʌ, ə/は(Ⅶ)に見られる長母音/u:/が短音化して/u/となり⁴⁾、(Ⅷ)の変化を経た結果/ʌ, ə/ (/ʌ/は強勢がある場合、/ə/は無強勢の場合)になったことを示す。従って語基 **house** の派生語 **husband** には/ʌ/が現れるという訳である。**South** /au/ > **southern** /ʌ/なども同様の過程を経ていると考えられる。これを図示すると以下ようになる。

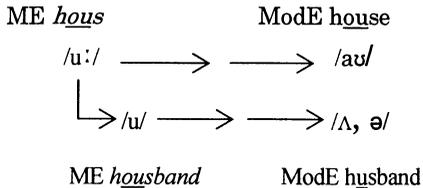


図1: (Ⅶ), (Ⅷ)および(7), (8)の音変化

GVSにおける母音の位置関係が分かりやすいように、以下の図2を引用しておく。

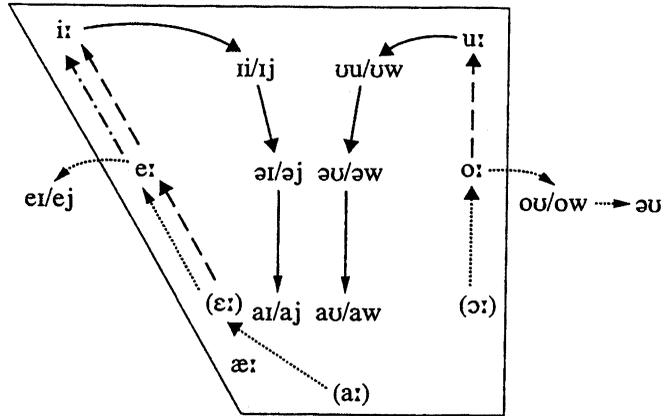


図 2 : GVS を示す逆台形の母音図⁵⁾

先祖返りする母音の具体例

表 2 の (1) - (8) の順番に従って、それぞれのサンプルを挙げながら古音化、短音化の具体例を検討してみよう。

(1) /aɪ/ > /ɪ/⁶⁾

まず -iCe の綴りを持つ語から始めたい。このグループに属する語は非常に多い。/aɪ/ を持つ語基の典型的な綴りは -iCe, -y, i+ld, i+nd などである。以下に語基サンプルとその派生語を挙げるが、語基の語尾特徴によってまとめている。

○ -iCe の綴りを持つ語

・ -ibe で終わる語

describe > description, descriptive; inscribe > inscription; prescribe > prescript, prescription, prescriptive, prescriptism; proscribe > proscription; scribe (「写字生」) > script, scriptorium (「写字室」), scriptural, scripture; subscribe > subscription, subscript; transcribe > transcript, transcription

・ -lide で終わる語

collide > collision; elide > elision

・ **-side** で終わる語

preside>president, presidency, presidential; reside>residence, resident, residency, residential; subside>subsidence, subsidiary

・ **-vide** で終わる語

divide>dividend, division, divisible, divisibility; provide>provision, provisional, providence, provident, providential; subdivide>subdivision

・ **-wife** で終わる語

midwife>midwifery (米音には綴り字発音の/aɪ/もあるが、英音は/i/) ; wife>hussif (「針箱」 housewife < OE *hūs + wif*)

・ **-ile** で終わる語

agile>agility; bile>bilious; compile>compilation; crocodile>crocodilian; docile>docility; ductile>ductility; facile>facility; imbecile>imbecility, imbecilic; fertile>fertility, fertilization; fragile>fragility; futile>futility; hostile>hostility; infertile>infertility; mobile>mobility, mobilize, automobile, snowmobile; reconcile>reconciliation; reptile>reptilian; senile>senility; servile>servility; versatile>versatility; vile>vilify; virile>virility; volatile>volatility

-ile で終わる語の多くは英音が /-aɪ/ で米音は /-əɪ/ であるが、ここでは英音を優先した。語基に /aɪ/ を持つ語が派生語になると /i/ に変わる。この変化は GVS (I) i: > ai の変化を逆にしたもの (ME の発音に戻る古音化) であり、なおかつ /i:/ が /i/ になっているので短音化も生じている。教室で automobile のことを「オートモバイル」とする発音を耳にした。この発音だと「自動携帯」という意味になろうか。古音化と短音化を知っていれば「オートモービル」と発音できたと思われる。

・ **-ime** で終わる語

crime>criminal, criminality, criminalize, criminology; mime>mimetic, mimic, mimicry; pantomime>pantomimic; prime>primitive, primitivism; sublime>sublimate, sublimation, subliminal, sublimity

・ **-ine** で終わる語

alpine>alpinist; combine>combination, combinative; decline>declination; define>definition, definite(ly), definitive; dine>dinner; divine>divinity, divination; incline>inclination, disinclination; line>linear; mine>mineral, mineralogy; pine>pineal; recombine>recombination, recombinant; redefine>redefinition; swine>

Swīndon, Swīnden, Swīnstead, Swīnton（この4語は地名）; vine>vineyard, vīniculture, vīnegar, vīnegary, vīntage, vīntner

動物名を含む英国の地名がある。Swine「ブタ」が単独で発音される場合は /swaɪn/ だが、地名（例えば Swīndon は OE *swīn* + *dūn* で「ブタを飼育する丘」）に入ると短音化と古音化で /swm-/ となる。Vine は「ぶどうの木、つる植物」の意だがワインやお酢に関連する派生語を生み出していることが分かる。

・ **-ire** で終わる語

acquire>acquisition, acquisitive; admire>admirable, admiration; aspire>aspirated, aspiration, aspirator, aspirational; conspire>conspiracy, conspirator, conspiratorial; expire>expiration; inspire>inspiration, inspirational; perspire>perspiration; respire>respirable, respiration, respirator, respiratory; satire>satirical, satirist, satirize; transpire>transpiration

・ **-cise** で終わる語

circumcise>circumcision; concise>conclusion; excise>excision; exorcise>exorcism, exorcist; imprecise>imprecision; incise>incision; precise>precision

・ **-vise** で終わる語

improvise>improvisation; revise>revision, revisionism, revisionist; supervise>supervision; televise>television, televisal

・ **-ite** で終わる語

contrite>contrition; disunite>disunity; erudite>erudition; expedite>expedition; extradite>extradition; ignite>ignition; invite>invitation, invitational; finite>infinite(ly), infinitive, infinity; recite>recitation, recitative; reignite>reignition; rite>ritual, ritualistic, ritualize; site>situate, situation; unite>unity, unit, unitary, Unitarian; white>Whitby (OE *hwīt* + ON *bý* 「白い村、開墾地」), Whitman, Whitmonday, Whitney (OE *hwīt* (dative *-an*) + *ēg* 「白い島」), Whitsun, Whitsunday, Whitsuntide

・ **-ive** で終わる語

archive>archivist; deprive>deprivation; derive>derivation, derivative; five (OE *fif*) >fifteen⁷⁾, fifteenth, fifth, fifthly, fifty, fiftieth

・ **-type** で終わる語

archetype>archetypical; prototype>prototypical; stereotype>stereotypical; type>atypical, typical, typically, typify, untypical

○その他

・ **-ign** で終わる語

assign>assignment; consign>consignation; cosign>cosignatory; design>designation; malign>malignancy, malignant, malignity; resign>resignation; sign>signal, signalize, signalman, signatory, signature

語基の‘g’は黙字だが、派生語では復活する。

・ **-lyze** で終わる語

analyze>analysis, analytical; dialyze>dialysis; electrolyze>electrolysis; hydrolyze>hydrolysis; paralyze>paralysis; psychoanalyze>psychoanalysis

・ **-ply** で終わる語

apply>applicable, applicant, application; imply>implication; multiply>multiplication, multiplicity, multiplicative

・ **-ify** で終わる他動詞とその派生語

amplify>amplification のように変化する語は無数にある。‘-fy’は強勢を受け /-fà/ となるが、その派生語では強勢が -cation/-kɛ́ɟʃən/ に移動するので、‘-fi-’の部分は弱化して /i, ə/ になる。

・ **-ise/-ize** で終わる他動詞とその派生語

この種の語も無数にあり、今後ますます増えていくと思われる。civilize>civilization や realize>realization のような派生語には /-lɛ́ɟɟʃən/ と /-lɑ́-/ の2つの発音が記されている。短音化の観点から、将来的には /-lɑ́-/ ではなく /-lɛ́-/ と発音する人が増えるものと考えられる。Motorization はどちらで発音するだろうか。 /-rɛ́-/ が多いのではないだろうか。

○語基のサンプルが1つのもの。

child> children; Christ>Christian, Christendom, Christianity, Christmas, Christopher, Christine, christen; confide>confidence, confident, confidential; cycle>cyclic (/aɪ/, /ɪ/ の両方あり), encyclical, bicycle, tricycle; Cyprus>Cypriot, Cyprian; decide>decision; deride>derision; disciple>discipline, disciplinary, disciplinarian; indefinable>indefinite(ly); kind>kindred; migrate>immigrate, immigration, immigrant, emigrate, emigration, emigrant; minus>minuscule; oblige>obligation, obligatory, obligate; paradigm>paradigmatic; parasite>parasitic, parasitical, parasitize; tyrant>tyranny, tyrannous, tyrannical, tyrannize, tyrannicide; wide>width; wind /aɪ/ 「巻き付ける」 >windlass; wise>wisdom, wizard, wizardry; vice>

vicious(ly); virus>virulence, virulent

これで Christ は/aɪ/ という二重母音を持つものに対して Christmas は/i/ を持っている理由が理解できるだろう。Christmas の't' が発音されないのは3子音が連続した場合、handsome の'd'のように、真ん中の子音が落ちるためである。Christen の't' も同じ理由で発音されない。

(2) /i:/ > /e/

語基の典型的な綴りは-ee-と-ie-である。

○ -ee-の綴りを持つ語

creed>credit, credible, credibility, creditable, creditor, credulous; exceed>excess, excessive(ly); proceed>process, procession(al), processor; succeed>success, successful, successfully, succession, successive, successively, successor; deep>depth; discreet>discretion, discretionary; green>Greenwich(「緑の村」の意の地名。/grm-/ (短音化) や/gren-/ (古音化) という発音もある), Grendon (OE *grēne + dūn* 「緑が丘」。短音化と古音化が見られる); redeem>redemption, redemptive; sheep>shepherd (OE *scēaphierde* 「羊の群れを世話する人、羊の番人」。短音化と古音化)

○ 第一音節に-e-を含む語

以下の語もこのグループに入るだろう。

genus>generate, generation, general, generous; Jesus>Jesuit; penal>penalty; secret>secretary

(3) /i:/ > /e/

語基の典型的な綴りは-ea-, -ei-, -eCe-である。

○ -ea-の綴りを持つ語

- ・ heal>health; steal>stealth; weal>wealth
- ・ clean>cleanly (i:/の他に((古)) /e/もある。Uncleanly も同じ), cleanliness; unclean>uncleanly
- ・ cleanse, cleanser, cleansing も古い音を反映していると思われる。
- ・ displeas>displeasure; pleas>pleasure, pleasant, pleasantly, pleasurable
- ・ beas>bestiary, bestial; beaver>Beverley (OE *beofor + *licc stream* 「ビーバーが出没する流れ」); breathe>breath; ceas>cessation; east>Essex (OE *ēast + Seaxe* 「東

サクソン」); heath>heather; repeat>repetition, repetitive, repetitious; zeal>zealous, jealous, zealot, zealotry

○ -eiの綴りを持つ語

・ conceive>concept, conception, conceptual; deceive>deception, deceptive;
perceive>perception, perceptible, perceptive, perceptivity, perceptual;
receive>reception, receptive, receptionist, receptor, receptivity

○ -eCeの綴りを持つ語

・ accede>accession; cede>cession; concede>concession, concessive; intercede>
intercession; recede>recession, recessional, recessionary, recessive; secede>secession,
secessionism, secessionist

・ contravene>contravention; convene>convention, conventional; intervene>
intervention; subvene>subvention

・ athlete>athletic; obsolete>obsolescence, obsolescent

・ extreme>extremity; supreme>supremacy, supremacist

・ impede>impediment, impedimenta

・ compete>competitor, competitive

・ obscene>obscenity (/e/, /i:/両方の発音あり); serene>serenity

(4) /ei/ > /æ, e/

語基には/ei/が用いられるが、派生語には/a:/ではなく表1(IV) a: > æ: > ε: > e: > eiの中間段階の音が短くなったもの、すなわち/æ/や/e/が現れるケースである。

/ei/ > /æ/

語基の典型的な綴りは-aCeである。

○ -aCeを含む語

cave>cavity, cavern, cavernous; crane>cranberry; dame>Madame (/ə/, /ɑ:/の発音も); flame>flammable, flammability; grade>gradual(ly), graduation; grave>gravity, gravitation(al), gravitate; inflamm>inflammable, inflammatory, inflammability;
insane>insanity; plate>platter; profane>profanity; sane>sanity

○ その他

・ -aCCeを含む語

chaste>chastity; table>tablet, tabular, tabulate, tabulation, tabulator

・ -ious で終わる語

audacious>audacity; tenacious>tenacity; veracious>veracity; vivacious>vivacity;
voracious>voracity

・ -ai-を含む語

claim>clamor, clamorous; exclaim>exclamatory; explain>explanatory; vain>vanity

・ -aC-を含む語

Janus>janitor, January; nation>(inter)national(ly), nationalism, nationalist,
nationalistic, nationality, nationalize, nationalization; nature>natural, naturalist,
naturalistic; patron>patronage; vapor>evaporate; volcano>volcanic

/eɪ/ > /e/

派生語に表 1 (IV)の中間段階の音を含む語である。

abstain>abstention; break>breakfast (/brékfəst/); detain>detention; retain>retention;
waist>waistcoat (/wéskət/)

breakfast の break-は/eɪ/ではなく/e/ (短音化)。fast も単独だと/a:, æ/だが派生語では弱強勢になり、なおかつ短音化も受けて/ə/となる。Waistcoat も同様。

(5) /əʊ/ (/ ou /) > /ɔ, (ɑ)/

語基の典型的な綴りは-oCe や-oa-だが、サンプル数は少ない。古音化と短音化が起きている。

○ -oCe を含む語

bone>bonfire; cone>conic, conical; endoscope>endoscopic; evoke>evocative;
jocose>jocosity; nose>nostril; provoke>provocative;

○ -ious で終わる語

ferocious>ferocity; precocious>precocity

○ その他

holy>holiday; old(er)>alderman (古音化のみが起きている); throat (典型的な綴り、-oa-を持った数少ない例)>throttle

(6) /u: / > /ɔ (ɑ)/

典型的な綴りは-oo-。派生語の母音は/o:/よりも更に下降し、短音化も生じ

ているようだ。このカテゴリーに該当するサンプルは極めて少ない。

goose>*gosling* (ME *gesling*, *gosling* 「ガチヨウのひな」); *goshawk* (OE *goshafoc* = *goose* + *hawk* 「ハイタカ」); *good*>*gospel* (OE *gōdspel* 「良き便り、福音」)

OE, ME *gōd* の母音/o:/は GVS を経て/u:/に上昇し、次に短音化して *good* /ʊ/ に至っている。

(7), (8) /aʊ/ > /ʌ, ə/

この変化は図1を参照。語基の典型的な綴りは -ou- だが、派生語には -ou- のままのもの、あるいは -u- となるものがある。

○ -ound で終わる語

abound>*abundance*, *abundant*(ly); *found*>*Newfoundland*; *profound*>*profundity*

○ -nounce を含む語

announce>*annunciation* (*announce* の名詞は *announcement* があるが、*annunciation* 「(受胎)告知」もある); *denounce*>*denunciation*; *renounce*>*renunciation*; *pronounce*>*pronunciation*

○ -outh を含む地名

mouth>*Bournemouth* (OE *burna* + *mūpa* 「河口」), *Dartmouth* (「Dart 川の河口」), *Exmouth* (「Exe 川の河口」), *Falmouth* (「Fal 川の河口」) *Plymouth* (「Plym 川の河口」), *Portsmouth* (「港の入口」); *Tynemouth* (「Tyne 川の河口」), *south*>*Sussex* (OE *sūþ* + *Seaxe* 「南サクソン」), *Sutton* (OE *sūþ* + *tūn* 「南の町」), *southern*, *southerner*, *southerly*, *Southwark* /sʌðək/ (OE *sūþ* + *Weorc* 「(テムズ川)南の砦」)

○ house を含む語

house>*husband* (OE *hūsbonða* 「自由土地所有者」), *husbandry*, *housewife* /hʌzəf/ (「針箱」), *hussif* /hʌsəf, hʌz-/ (「針箱」) *housewife* < OE *hūs* + *wif*), *hustings* (OE *hūsting* 「王や領主が招集した討議会」)

(7), (8) /u:/ > /ʌ, ə/

この変化も図1を参照。/u:/は GVS (VII) の変化で/aʊ/になるはずだが、/u:/の中には短音化して/w/となり、それに(VIII)の変化が適用されて/ʌ, ə/となったものがある。従って/u:/ > /ʌ, ə/の変化の中では/u:/の方が/ʌ, ə/よりも古い音である。今までに取り上げたサンプルとは逆で、このケースは語基に古い音が使われ、その派生語に新しい音が用いられている。しかし短音化

は働いている。

語基の典型的な綴りは-uCeである。

○ -duceで終わる語

deduce>deduction, deductive; induce>induction; introduce>introduction, introductory; produce>product, production, productive, productivity; reduce>reduction, reductive; reintroduce>reintroduction; reproduce>reproduction, reproductive; seduce>seduction, seductive

○ -sumeで終わる語

assume>assumption; consume>consumption, consumptive; presume>presumption, presumptive, presumptuous; resume>resumption

○ その他

duke>duchess（「公爵夫人」）; moon>Monday, month（天体の^{つき}月、曜日^{げつ}の月、暦の月^{がつ}がすべて母音変化の点でつながっていることが分かる）; two pence>tuppence /tʌpəns/

おわりに

英語の変化形の中には様々な不思議な形がある。例えば man の複数形はなぜ mans ではなく men になるのだろうか。なぜ night には発音しない 'gh' が含まれているのだろうか。なぜ 'a' という文字は「アー」ではなく「エイ」と発音するのだろうか。これらの「なぜ」は現代の英語を観察しているだけでは説明がつかない。歴史をさかのぼり、過去の語形をひも解く事によって初めて解明される。英語史研究が英語への理解を深め、英語教育に貢献できる所以である。

本稿では語基と派生語の母音の変化に何らかの規則性があるのではないかという前提で資料を集め検討した。その結果、ME から ModE への移行期に見られる音変化である大母音推移 (Great Vowel Shift) が関係しているようだ、という事が分かった。

我々が英語を学び始めた頃、一つ一つの単語を別個に覚えていったと思う。例えば please, pleasure, pleasant などは 3 つの単語として別々に暗記したはずである。しかし冒頭で示した音変化のルール(3) i: > e を知ると、この 3 語

が意味だけではなく音声面からも関連が深いことが明確になる。いわば点として覚えていたいくつもの単語が音のルールで線につながるのである。筆者はこの論考を書き始めてから *disciple* と *discipline*、*heal* と *health*、*weal* と *wealth* などが語源的につながっていることに気づき、まさに「目からうろこ」の思いであった。GVS に基づいた音声ルールを知っていれば語彙習得に大いに役立つのは間違いないと思われる。

<註>

- 1) -able, -al, -ance, -ed, -ee, -en, -er, -ible, -ing, -ise (-ize), -ish, -ist, -ive, -ly などの接尾辞が付加されて派生語が作られても、派生語の母音は変化しないようである。
- 2) 例えば *child* の発音は ME 期に起きた長母音化 (-ld, -nd, -mb の前で短母音が長音化) と GVS の変化を経て /tʃald/ となったのに対して、*children* のそれは OE 期に -ld の後ろに更に3つ目の子音が付加したため母音の長音化が起きなかった(Barber, pp. 154-155 を参照)。従って単数形の発音は OE *cild* /tʃild/ > (長音化) > ME *child* /tʃi:ld/ > (GVS) > ModE *child* /tʃald/ という変化をたどって現在の発音になった。それに対して複数形は長音化も起きず、従って GVS の影響を受けなかったので OE 以来の短母音のままであった (OE *cildru* > ME *childre/children* > ModE *children* /tʃildrən/)。結局、語基 *child* の母音 /ai/ は新しい音であり、その派生語 *children* には /i/ という古い音が用いられていることになる。
- 3) Williams, pp. 341-342 を参照。また英語は短い単語、特に単音節語を好む言語である。2 音節までが許容範囲で、3 音節語になると長いという印象を与え、4 音節語は英語らしさを失った単語と言えよう。この事実を端的に示すのが形容詞の比較級(最上級も同様)である。単音節語は屈折比較(例: *faster*) を用いる。2 音節語は屈折比較(例: *easier*) を用いるものと、屈折比較と迂言比較の両方(例: *cleverer; more clever*) を許容するものに分かれる。しかし 3 音節語には必ず迂言比較を用いる。3 音節語に屈折語尾 -er を付加すると 4 音節語(**beautifuler*) になり、英単語としては認められない。長過ぎる印象を与えるからであろう。
- 4) OE *ūs* /u: s/ がそのまま GVS を経たとすると現在は /aus/ となっているはず

である。現在の us の発音は/ʌs, əs/なので、(VII) から(VIII) に見られるような長母音の短母音化があったはずである。

- 5) Krug の Table 48.1, p. 760 を参照。
- 6) この公式は左辺の発音、つまり語基の母音/au/が、その派生語において/i/に変化することを表している。また()内の数字は表 2 の番号に対応している。
- 7) ME 期には -ld、-nd、-mb 以外の子音連続の前で長母音が短音化した。従って OE *fif + tēne* は ME 期に *fif + tēne* となった。これで five と fifteen その他の派生語の母音との違いが説明できる。Williams, p. 336 を参照。

<参考文献>

- Barber, Charles. *The English Language: A Historical Introduction*. Cambridge University Press, 1993.
- Baugh, Albert C. & Thomas Cable. *A History of the English Language*. 4th edition. Routledge, 1993.
- Cameron, Kenneth. *English Place Names*. B T Batsford, 1996.
- 井上永幸・赤野一郎編『ウィズダム英和辞典』第3版 三省堂 2013
- Krug, Manfred. “Early Modern English: The Great Vowel Shift.” In *English Historical Linguistics*. Ed. by Alexander Bergs and Laurel J. Brinton, De Gruyter Mouton, vol. 1, 2012: 756-776.
- Lass, Roger. “Phonology and Morphology.” In *The Cambridge History of the English Language*, vol. III, 1999: 56-186.
- Mills, A. D. *Dictionary of English Place-Names*. Oxford University Press, 1991.
- 高橋作太郎編『リーダーズ英和辞典』第3版 研究社 2012
- 寺澤芳雄編『英語語源辞典』研究社 1997
- Watts, Victor. *The Cambridge Dictionary of English Place-Names*. Cambridge University Press, 2004.
- Williams, Joseph M. *Origins of the English Language*. The Free Press, 1975.